

くるまばもうせんごけ (*Drosera Burmanni* VAHL.)、左端ニ一株ノ
こまうせんごけ (*Drosera spathulata* LABILL.) ラ伴フ

○くるまばもうせんごけトこまうせんごけ

緒 方 正 資

今カラ二十年以前ノ吾國植物學書ニハくるまばもうせんごけ (吾領内デハ臺灣ニ産スルモノ) ノ學名デアル *Drosera Burmanni* VAHL. ヲ内地ニモ産スルこまうせんごけニ充テ、居タモノダガ明治三十八年一月發行植物學雜誌第二百十六號歐文欄第十九頁ニ於テ牧野先生ガこまうせんごけノ方ヲ *Drosera spathulata* LABILL. (*Drosera Loureiri* Hook. ET ARN.) ニ替ヘラレテ始テ兩者劃然ト區別ガツイタ、此兩食蟲植物ニ就キテハ島田彌市君ガ臺灣博物學會報第十八號ニ於テ又黒澤英一君ガ同會報第四十九號ニ於テ詳細ニ記載サレテ居ルカラ省略スルシ唯内地ノ同好者ノ中ニハ交換標本ニ依テ僅ニ渴ヲ醫シテ居ラル、方モアルコトダト思ヒコ、ニ生時ノ寫真ヲ掲グル事トシタ、コレハ昨年末ヨリ今年正月ニカケテ臺灣旅行ヲシタ際臺北市附近ノ草山ト云フ處カラ持チ歸ツタ古株カラ廣瀬巨海君ノ熟練ナル培養ニヨリ發芽生長シタモノヲ岡田喜一君ガ撮影シタモノデアル、此寫眞圖ノ左側端ノ一株ハこまうせんごけデ他ハ皆くるまばもうせんごけデアル、此兩者ハ花ガアレバ花柱ノ數ノ相違デスグ區別サル、ガ花ガナクトモ葉ノ形ノミ

生命ノ起原トシテ考慮セラレル植物

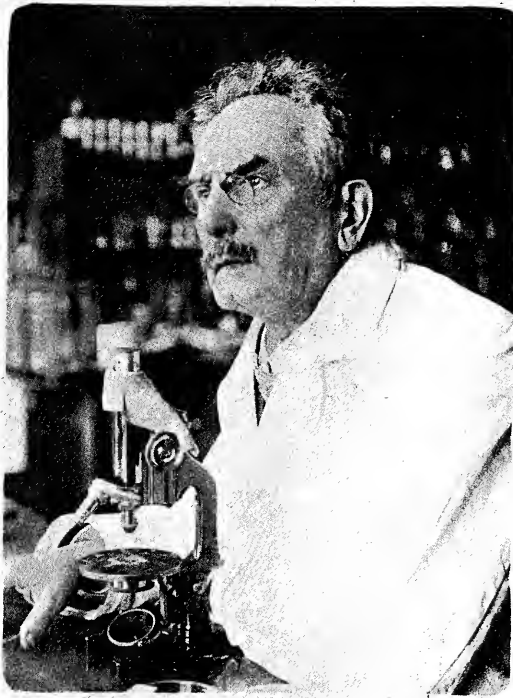
デ明瞭ニ別テル、殊ニ注目スベキ點ハこまうせんごけノ方ハ葉ガ著シク紅味ヲ帶ビ若葉ガさわらび形ノ屈曲ヲナシくるまばまうせんごけハ葉色目立テ綠色ヲ呈シタゞ腺毛ノ尖端ノミガ紅ク又若葉ハ左右カラ卷キ合テ居ル

○生命ノ起原トシテ考慮セラレル植物

モーリッシ先生並ニ其自署

東京帝國大學農學部講師

向坂道治



Hans Molisch

March 1925

生命ノ起原、生物發祥ノ學說ハ古來ノ大問題デ幾多ノ大生物學者、大物理學者ガ各自畢生ノ研究ノ結論トシテ各々ガ達シ得タ生命論ヲ以テ闡明シタルガ如ク考フルモ何レモ未完ノ說デアツテ今ナホ議論百出シ容易ニ決定セラル、モノデナイ、嘗テ東北帝國大學ニ聘セラレタ奥國ウーイン大學教授モーリッシ氏ハ彼ガ研究ノ結果トシテ紅色バクテリアヲ生命ノ最初ノ者ト考ヘソノ紫外光線ニ對シ強度ノ抵抗アルコトヲ實驗證明シ地球ノ過去或ハ他ノ天體ヨリ紫外線ノ強キ光ノ中ヲ生活シツ、我ガ地球